

ふるさと再発見 第26回

Re-discovery Omihachiman

近江八幡の学校建築 現存する草創期の校舎

高校・大学の受験シーズンが始まり、2月は新しい学校に通う準備の時期ともいえます。

わが国で「学校」ができたのは明治初期ですが、近江八幡市内には当時の建物が幾つか残っています。

明治6年（1873年）4月1日、当時の蒲生郡八幡町内に八幡東学校、八幡西学校の2校が開校しました。当初は1校設置の計画でしたが、児童数が多く校舎が狭いなどの理由から、2校を設置することになりました。4月10日の開校式には滋賀県大参事（現在の副知事）も列席しました。

校舎は、八幡西学校は旧伴荘右衛門宅を借り受け、現在の旧伴家住宅につながります。一

方、八幡東学校は博労町上の願がん故寺を仮校舎として出発しまし

たが、明治9年に新校舎造営の計画があがり、翌年4月、為心町元の日牟禮八幡宮鳥居前に擬洋風建築の校舎が完成しました。

校舎建設にあたっては、京阪地方の学校校舎の視察を行い、構造を決定しました。新校舎開校式には、滋賀県令（現在の県知事）籠手田安定こてだやすたが学務課員を引率し開校式に臨席し、祝辞を朗読して、正副区長と建築掛5人を表彰しています。現在、修復・再建などはされていますが、その建物は白雲館として継承されています。すなわち、本市は学草創期の建築物が、観光しながら内部も見学できる数少ない地域なのです。



八幡東学校として建てられた白雲館（八幡小学校蔵）

また、明治6年に創立した近江八幡市内の学校はこの2校のほか、常楽寺村の親民しんたみ学校と、江頭村の至誠しせい学校の2校ですが、このうち至誠学校は、改築はされているものの現存します。当初は木造二階建ての校舎が2棟ありましたが、北里尋常高等小学校が創立し、至誠学校が閉校した際、移築されました。現在残る1棟は至誠館と呼ばれ、江頭町公民館の別館として使用されています。寄棟屋根の総2階建ての擬洋風建築です。玄関は円柱の柱にむくり屋根をのせ、破風板をアーチ状に曲げています。こうしたむくり屋根は、安土風土記の丘にある同時期に建



現在も江頭町公民館の別館として使用されている旧江頭村の至誠学校

てられた柳原学校校舎（旧新旭町に所在）にもみられます。内部は見学できませんが、1階部分は3室と土間、2階は1室で構成され、その前面中央部にはバルコニーが設置されています。このように、本市域では、明治初期の学校建築が4棟残り、うち3棟は内部も見学できます。また、市立資料館では、北里尋常高等小学校に併設された北里実業補習学校（働く青少年のために小学校教育と職能に関する知識技能を学習する教育機関）の裁縫の先生が所有していた裁縫・手芸教材を展示しています。コロナ禍ではありますが、感染に気を付けながら、全国有数の教育関係の施設・資料を見学ください。

！ 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

人口と世帯 令和3年1月1日現在 ()は前月比

総数	82,331人	(+ 69)
男	40,460人	(+ 60)
女	41,871人	(+ 9)
世帯	34,516世帯	(+ 80)

※外国人住民(43カ国・地域/1,559人)を含みます。